

金大発のベンチャー企業「キュービクス」（金沢市）が取り組むがん検査機器の開発が、経済産業省の「課題解決型医療機器等開発事業」に採択された。同社は血液の遺伝子分析で消化器系がんの有無を調べる検査法を高度化し、約4時間でがん判定できる新システムを開発する。費用負担も軽減され、がん予防推進や診断の効率化が期待される。

消化器系がん

4時間で判定

となる。同社は2018年に事業化し、20年の売上高100億円を目標とする。

県の支援が奏功

県は06年度の「地域産学官連携豊かさと創造研究開発プロジェクト」で同社が参画した研究開発を支援。08年度には「いしかわ産業化資源活用推進ファン

採択期間は今年度から3年間で、年間約4500万円の補助を受ける。全国で140件の申請があり、28件が採択された。

金大医薬保健研究域医学系の金子周一教授のグループとキュービクスが共同開発した現在の検査法は、がんに関係する遺伝子載せた「DNAチップ」を使い、患者の血液から抽出した遺伝物質を解析する。昨年8月に商品化され、国内で約350例の実績がある。

採択事業は石川県産業創出支援機構が管理機関となる。検査工程を統合して全自動で診断できるシステムを構築し、検査時間を従来の3日間から約4時間に短縮。6〜10万円だった費用は約3分の1

金大発ベンチャー開発へ



ド（活性化ファンド）の支援枠に採択するなど研究開発に助成してきた。

県が新産業創出に向けた取り組みが実を結んだ形で、産業政策課は「患者の負担が少なく、より正確な検診が実現する。今後も石川県発のベンチャー事業を後押ししたい」としている。

血液の遺伝子を調べるキュービクスの関係者。約4時間でがん判定する新システムの開発を目指す

今年5月、野々市市の同社研究所

血液検査新システム 国事業に採択